

## MNREAD-J による同名半盲患者の読書評価

第三機能回復訓練部 関口 愛 仲泊 聡

第二機能回復訓練部 杉山 あや

### 【目的】

同名半盲をきたした患者は視力低下をきたしていなくても、視野障害から読書困難をきたす場合が少なくない。一般的に半盲性難読は健常視野と盲視野との境界から文字が急に現れたり、消失したりするように見えるために生じる。同名半盲では、半側空間無視の影響も考えられる。左半盲では発生頻度は報告により様々だが、13～100%に半側空間無視が合併するといわれている。右半盲の場合、半側空間無視は合併することは少なく、あっても1ヶ月程で消失するか、軽症化することが多いといわれている。一方、右半盲では、黄斑分割があると横書き文字の読字中に生じる右方向へのサッケードが阻害され、読書パフォーマンスが著しく低下することが指摘されている。これらの違いを考慮し、左同名半盲患者には末梢より刺激を与え中枢へ刺激を与えるような4方法を行い、右同名半盲患者に対しては、右方向へのサッケードをしなくても読書を可能になるような方法にて、読書パフォーマンスが向上するか否かをMNREAD-Jにて検討した。

### 【方法】

対象は、左半盲A群 (n=5) : 机上検査にて半側空間無視を指摘された患者、左半盲B群 (n=2) : 左側のものに衝突するなど日常生活上困難を認めてはいるが、机上検査では半側空間無視を確認できなかった患者と右半盲群 (n=8) とその対照であった。読書速度測定にはMNREAD-Jのパソコン版を用い、30cmの視距離で行なった。左半盲の場合は、通常の測定、12プリズムの基底を左方向に装用した場合、12プリズムの基底を右方向に装用した場合、両側のレンズの右半分をサングラス状にした場合、右手を左側に置いた場合において検査を測定した。右半盲の場合は、通常の測定とパソコンモニターを90度時計周りに倒して検査を行なった。

### 【結果】

左半盲A群において大きな文字サイズにて左端の読み飛ばしがみられ、約35ポイントにて読み飛ばしはなくなった。最大速度は平均180文字/分、特に大きな文字において1分間に読める文字数が少なく、読む速度が遅かった。左半盲B群において左端の読み飛ばしはみられなかった。最大読書速度は平均220文字/分であった。また、各エイドの効果は今回認められなかった。一方、右半盲群では、右端の読み飛ばしや繰り返しは見られなかった。最大読書速度が3名において時計回りに90度倒した場合に18%以上増加した。4名は変化が少なかった。1名は15%以上減少した。

### 【考察】

左半盲群では半側空間無視の程度によって左端の読み飛ばし数、最大読書速度に違いが見えた。また、右半盲群では右端の読み飛ばしや繰り返しはみられなかった。このことにより、MNREAD-Jが半側空間無視による読書困難の評価に有用であると思われた。左半盲群において、今回用いたエイドによる読書速度の改善はみられなかったが、右半盲群において、横書きの文章を90度時計回りに倒して読むことは、読書パフォーマンスを向上する方法として有用かもしれない。